（別紙3）

公表　事業所における自己評価総括表　児童発達支援

○事業所名	プログラミング活動療育放デイ エスタシオン 木更津教室			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 3日	～	2026年 2月 7日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	3	（回答者数）	3
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日	～	2026年 3月 10日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	20	（回答者数）	12
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラミングなどのデジタル教育に特化した放デイで、児童が持つ特性を強みに変えるような取り組みを積極的に行っている。	マインクラフト(教育版)の仮想空間でのSST実施している。 デジタル空間に職員や児童複数人で参加し、協調性や相手の立場になって考えるなどソーシャルスキルを養う活動を行っている。	課題に対する実績を増やし、それを踏まえた支援の内容を検討する。
2	支援方法について職員間で情報を行い、一貫した対応をしている。	前回の活動の様子をや次回取り組みたい活動等の他、支援方法や課題について職員間で情報共有している。 また、利用者支援で予想される問題等に対応方法もミーティングを行い決定している。	利用者一人ひとり対する課題や対応についても共有していく。
3	保護者の相談について連携を図りながら対応をしている。	定期的に行われる面談の内容を記録やミーティングで共有していくことで統一した対応ができるように連携を取っている。	利用者やご家族により寄り添った支援ができるようにご希望に応じて適宜面談が実施できるような体制を整えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎時の保護者への活動報告方法が統一されていないときがある。	職員間のスキルや目的意識の統一が不十分であると思われる。	報告内容の項目をあらかじめ明確にし、全職員が統一された方法で保護者にフィードバックができるように共有していく。
2	研修や訓練など取り組んでいることが周知されていない。	職員の福祉的サービススキルやプログラミングスキルアップ研修の充実していく。	SNS等を活用して事業所で行われた研修や訓練の周知を図る。
3	就学前に課題になったことや学校での支援方法について知る機会がない。	小学校との関りが少なく、情報の共有が出来ていない。	定期的に行われる保護者との面談の中で学校とのやり取りや担任からの評価などを聴取していく。 必要に応じて学校との連携方法等も検討していく。